

参考
資料

保育ドキュメンテーション例「子どもとつむぐ物語：遠足から始まった電車あそび」

■ 保育ドキュメンテーションとは？

保育ドキュメンテーションとは、活動の中で見られた子どもたち一人ひとりの感動や発見、気持ちの動きなどを記録するものです。個々の姿だけでなく、集団の中でのやりとりから生まれた感動も含めて捉えます。

「子どもたちが幼稚園で生きている世界を、家庭や他の保育者と共有すること」を目的として行っています。子どもたちにとって、幼稚園と家庭は切り離されたものではなく、すべてがひとつづきの世界です。保育ドキュメンテーションという形で、子どもが園でどのような世界を生き、どのように育っているかを伝えることで、それぞれの家庭で、その子に合った関わり方を見つける手がかりになると考えています。

また、子どもたちの興味・関心が可視化されることで、遊びや生活の広がりを予測し、あらかじめ必要な環境構成を考えることができます。掲示することで、保育者同士の対話が生まれることも大きな特徴です。

■ 保育ドキュメンテーションを作る流れ ※保育ドキュメンテーションの例は、2～3ページをご覧ください。

活動時間内に行うこと

可能であれば、数名の保育者で以下のように役割を分担します。

- ・ 子どもの発言や行動を引き出す（主担当）
- ・ 子どもの発言、つぶやき、行動をメモする（補助）
- ・ 写真やビデオをできるだけたくさん撮る（日本語話者でなくても可）
※保育者が1人の場合は、まずは発言や行動を引き出すことを優先します。

時間外に行うこと

- ① 写真やビデオを見返し、活動中に追いきれなかった子どもの発言や行動を理解する
- ② 保育者同士で、ざっくばらんに振り返りをしながら、発言や行動のメモを増やす
- ③ 写真とメモを整理し、保育ドキュメンテーションとしてまとめる

作り方や共有方法のアイデア

保育ドキュメンテーションの作り方は、実践の場によってさまざまです。大切なのは、子どもたちの行動や発言から育ちを見つめることです。形式にとらわれず、それぞれの場にあったやり方で行ってください。

以下はその一例です。

- ・ 子どもたちに制作に参加してもらうのも楽しい方法です。写真を見ながら、「これは何していたの？」「このときどう思った？」と問いかけ、その言葉を写真の横に書き添えます。仲間や家族に見てもらえる形になることを子どもたちは喜びます。
- ・ 本実践では、オンラインのコミュニケーションツールを使用して、毎週保護者と共有しています。また、子どもたちが見られるよう印刷したものを教室内に掲示しています。手書きで作成し、送迎時に園の入り口に掲示したり、ファイルに綴じて保護者がリレー形式で借りられるようにしたりする方法もあります。
- ・ 保護者から「家でも～していました」とコメントをもらい、保育ドキュメンテーション作りに参加してもらうのも一つの方法です。

電車ごっこ



教室に現れた線路にびっくり！
みんな自然とぐるぐる周りを走り
はじめました。Yくん「電車だ！」
Sちゃん「Choo Choo」と、
線路だと気づいた様子です。

『電車でいこう』の本を読んで
Yちゃん「これが線路だよ」Yくん
「あっ、トンネル」と教え合います。
Hくんは本に合わせて「ガタンゴ
トン」と真似している様子。



「線路はつづくよどこまでも」の歌に
合わせてみんなで歩きます。
「車掌のSです！」と元気に挨拶し、
後ろを振り返ってみんなが安全に
乗車できているか確かめるSくん。

電車ごっこ



未来先生がやってくる前から
線路に並んで待っていたYくん、
Yちゃん、Hちゃん。

先週は「電車こわい」と泣いていた
Rくん。勇気を出して車掌に挑戦
しました。それを見て拍手！
うれしそうなSちゃん。



駅を指さすYくん。

未来先生が描いた「ライオン駅」を見て、
「ねずみ(駅がいい)」とRくん。みんなで
駅を作ります。

